様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

葛城山麓周辺地区

令和5年3月
奈良県葛城市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県	市町村名	葛城市	地区名	葛城市山麓周辺地区		面積	268ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	2，111百万円	国費率	0.4	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高次都市施設（観光交流センター・まちおこしセンター）、道路（近鉄二上神社口駅前改良）、地域生活基盤施設（道の駅交流広場）
	提案事業	地域創造支援事業（レンタサイクル・更衣室・シャワールーム・地産地消農家レストラン）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(散策道道標の整備)	県主体での別事業と事業内容が重複しており、県事業で整備を実施したため削除。	影響なし
	提案事業	地域創造支援事業（レンタサイクル・更衣室・シャワールーム）	施設を管理運営するにあたり、1棟で管理を行い合理化を図るため。	影響なし
		地域創造支援事業（地産地消農家レストラン）	施設を管理運営するにあたり、1棟で管理を行い合理化を図るため。	影響なし
新たに追加した事業	基幹事業	高次都市施設（地域交流センター）	全国の道の駅をモデルに販売面積を拡充。	影響なし
		道路（道の駅交流広場管理道路整備事業）	交流広場の利便性を図るため。	影響なし
	提案事業	地域創造支援事業（チャレンジショップ）	全国の道の駅をモデルに販売面積を拡充。	影響なし
		地域創造支援事業（農産品直売所・酪農製品販売所）	全国の道の駅をモデルに販売面積を拡充。	影響なし
交付期間の変更	当　初	平成24年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響なし
	変　更	平成24年度～平成28年度		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	道の駅利用者数	人／日	910（0）	H22	3,000（2,000）	H28		3,453（2,244）	○	あり／なし	南阪奈道路葛城IC近くに位置しており、大阪側から奈良への玄関口に位置する優位性を活かし、市内はもとより県内の案内パンフレットを配架するなど利用者の利便性を高めており、物販についても県内各地のものを購入することができるとともに、隣接する公園を利用するファミリー層に人気を集めたため。	―
指標2	主要観光施設の観光客数	人／年	613,000	H21	650,000	H28		1,874,031	○	あり／なし	平成25年には當麻寺が所蔵する當麻曼荼羅が完成1250年を迎え、奈良国立博物館での特別展示を始め節目を活かしキャンペーンを行った。また、地方創生交付金を活用し、日本初の力士の出身地であることを強みとして相撲を軸とした観光に着手。インバンド需要も高まり、近隣市町村とも協議会を設立し誘客について相乗効果を生み出した。	―
指標3										あり／なし		

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												

4）定性的な効果発現状況

・道の駅へ地元農家が農産物を出荷するなど経済波及効果がうかがえる。・地元住民が飲食店を開業するなど起業意識の向上につなげた。・観光ボランティアガイドが週末に常駐することで観光案内の拠点としての機能がたかまった。・道の駅かつらぎを出発点として観光案内ツアーが月１回開催されるなど観光客だけに関わらず地元住民の地域に対する愛着を喚起することに繋がっている。

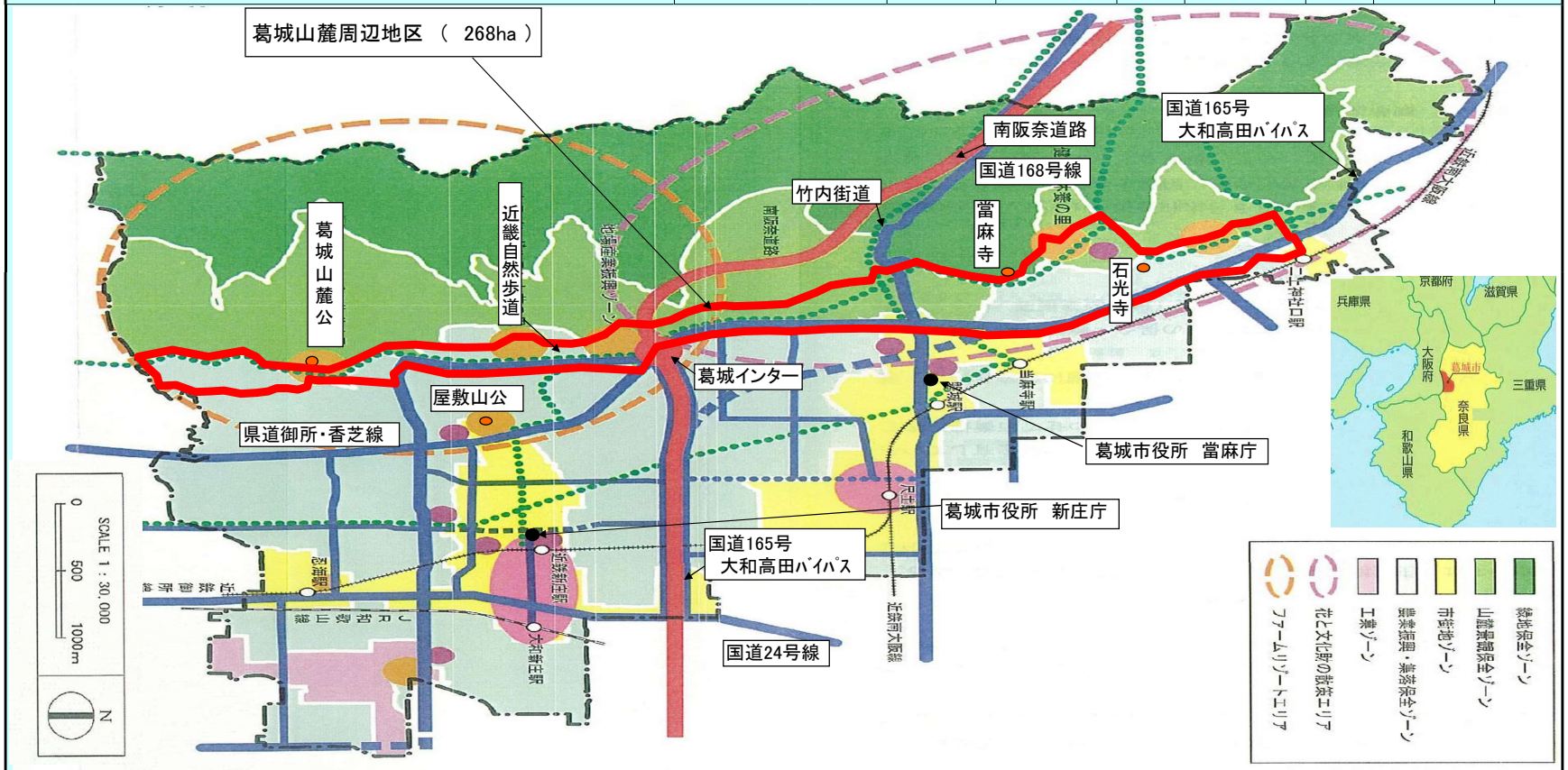
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況	今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	

様式２－２　地区の概要

葛城山麓周辺地区（奈良県葛城市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：産業基盤の形成と地域連携強化 目標１　地場産業活性化の拠点を整備し、農業・商工業・観光等の活性化を創出する。 目標２　交通機能の連携強化による都市・農村交流を促進する。 目標３　周遊環境の整備による観光スポットを演出し、新たなまち発見機会を創出する。	道の駅利用者数	単位：人／日	910 （0）	H22	3,000 （2,000）	H28	3,453 （2,244）	R3
	主要観光施設の観光客数	単位：人／年	613,000	H21	650,000	H28	1,874,301	R3
		単位：		H		H		H



まちの課題の変化	・相撲発祥の地であり実際に土俵にあがれる相撲館、竹内街道をはじめとする日本遺産や国宝を多数有する當麻寺、2つの道の駅など観光コンテンツは点在するものの、通過型観光に留まり観光消費額も低く観光の産業化を図れておらず、滞在型観光を促進するための仕組みの形成が必要である。通過型観光から脱却するためには、本市の観光イメージの定着化を図る必要があるものの、相撲発祥の地であることを全国に周知できていない状況にあり、本市のイメージに直結する飲食や土産物の充実化も図れていない。 ・相撲発祥の地のPRにおけるこれまでの取組により、市内での認知は高いものの、市外県外へのPRができていない。また、相撲と観光とが繋がっておらず相撲に関する観光商品がほとんどないため観光消費額に及ばない。その結果「我がごと」とならず市全体での相撲発祥の地のPRという意識醸成にまでは至っていない状況にある。相撲発祥を市外へPRすることはなにより大事であるが、PRだけでは観光消費額の増加にも限界があり、行政だけでなく民間を巻き込むためにも、例えば『食』の視点から相撲に関連した商品の開発など観光消費額を押し上げるための施策も必要となっている。 ・市内に宿泊施設がなく飲食店も少ないことは地産地消の消費にも関係し、本市農業においても収益化が図れていない一つの要因である。販売機会を確保し農業者の収入を増加させ雇用を確保するための一助とするために『食』の視点から地産地消を増やすことも必要である。 ・市内には宿泊施設がなく、観光消費額を増加させるためには宿泊施設の誘致について検討を進める必要がある。 ・年間の来客者数が100万人を超える道の駅かつらぎは南阪奈道路の葛城IC降口に位置しており、関西国際空港や大阪・京都からのアクセスも良く、市外からの来客が約6割と大半を占めるものの、買物を目的として直接帰宅する利用客の割合が6割に達しており、観光プロモーションの機会を逃してしまっている。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・奈良県西の玄関口として相撲を軸とした葛城ブランドの確立、南阪奈道路のかつらぎICエリアを中心とした賑わいの創出や将来的には宿泊施設を誘致することで滞在型観光を促進するとともに地域の稼ぐ力を向上させ、観光の産業化を図る。 ・観光を産業化することにより、観光消費額の増加や雇用機会の創出、地産地消による農業への波及に繋がり、さらなる人口増を目指す。